

ジャカード織物の開発支援

—柄づくりと提案商品開発—

繊維生活部 ○杉浦由季恵

1. 目的

本県の繊維産地では、バブルの崩壊，リーマンショックを経て，オリジナル商品・自社ブランドの開発に取り組む企業が多くなってきている。そこで，国内有数の織物サンプルとして知られている約 150 年前のヨーロッパの繊維サンプルを初めとする「オールドコレクション」をアイデアソースとして，有効に活用する事を目的として，ジャカード織物の柄づくりとカーテン地や小物の提案型商品の開発支援に取り組んだ事例を紹介する。

2. 内容

2.1 「オールドコレクション」

オールドコレクションは，1860～1970 年代のフランス・リヨン地方を中心としたヨーロッパ各地の織物や大正・昭和初期の友禅など，石川県工業試験場と(株)繊維リソースいしかわが収集した貴重な約 30000 点のテキスタイルサンプルからなる。これらは，時を経てもデザインのヒントとして十分活用が可能である。本サンプルは，現在，(株)繊維リソースいしかわが管理し，その内 17000 点をホームページで紹介している。

1860～1970 年代リヨン地方の織物



大正・昭和初期の友禅染

図1 「オールドコレクション」の一例

2.2 柄づくり

オールドコレクションを基にした，新たな柄づくりを行うために重要な基本的な画像編集加工技術(①送り，②合成，③展開)と，イメージマップづくりを中心に支援を行った。以下に具体的な内容を記す。

(1) 画像編集加工技術

①は，柄のつながりや繰り返しのことで，柄全体のイメージに大きく影響を与える。シンプルな送りとしては，たて・よこ，水平・垂直に繰り返す「正送り」(図2左)がある。また，送りによって柄ぐせが発生する場合や柄に動きが欲しい時には，「ステップ送り」(図2右)が有効である。CGで送りを付けた後，印刷紙を用いて実物大で，かつカーテン等のひだの状態では柄の見え方を確認した。



図2 送りの事例(左：正送り，右：ステップ送り)

②は，柄の一部を抽出し，拡大・縮小・回転・反転等の画像処理を行い，他のパターンと組み合わせる(合成)ことで，全体にバランスが良くなるように配置した。



図3 合成の事例

③は、オールドコレクションを基に様々な柄イメージに応用展開を行い、柄のバランスや柄ぐせの確認をしながら、改良・修正を支援企業と繰り返し検討した。

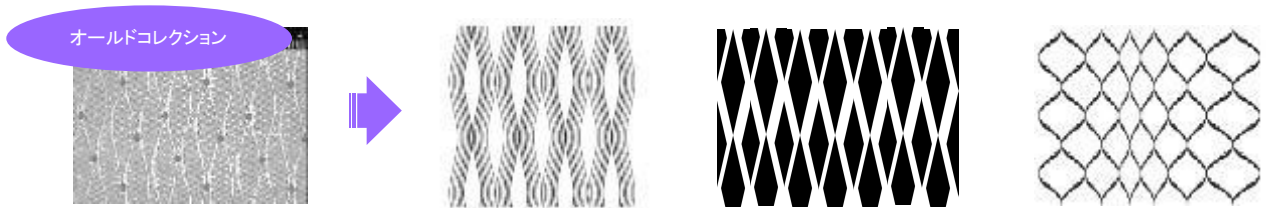


図4 オールドコレクションを基に応用展開した柄

(2) イメージマップづくり

柄の開発イメージの方向性を絞り込むため、視覚的に感じ取りやすいイメージマップを作製した。具体的には、生活者の趣向や織物の風合・色柄に関して、ドイツで行われた世界最大のホームテキスタイル見本市ハイムテキスタイル(2014年1月開催)の最新トレンド情報を参考に、市販品の中からイメージにあった画像をピックアップし、表1のように「カジュアル」「モダン」の両イメージに絞り込み、マップ(図5)を作製した。

表1 イメージ

カジュアル	モダン
ナチュラルで楽しいイメージ	クールで洗練されたイメージ
子育て期のファミリーをイメージ	ヒルズ族の生活を思わせるイメージ
柄は、ポップで可愛いもの	柄は、幾何学柄やストライプ・ボーダー
色味は、ナチュラルカラー	色味は、モノトーン



図5 イメージマップ

3. 結果

今回の技術支援を基に(株)オリジナークロスジャカード(小松市)は、ジャカード織物を種々開発した。この内、カーテン地については、複数のインテリアメーカーに提案サンプルのクオリティーが評価され受注拡大につながった。図6に示すクッションについては、国内最大のテキスタイル展ジャパングリエーション 2014(東京)へ出展し、反響を得て現在柄の改良を進めている。今後クッション、バック等はアンテナショップやネット販売等、商品化に向けた取り組みを継続支援予定である。



図6 試作したバックやクッション